

令和6年度和歌山県立日高高等学校中津分校 第2回学校運営協議会（議事録）

1 日 時 令和6年11月14日（木）15時00分～16時30分

2 場 所 日高高等学校中津分校 応接室

3 次 第

○ 開会

○ 会長挨拶

3年生の進路も徐々に決まりつつある頃だと思います。新聞報道等で見ますが、地域への結びつきが充実しており、地域にも中津分校の取り組みが理解されており、生徒の学びも大きくなっている。今後も、生徒が活躍できる場面を創出していただきたい。

○ 校長挨拶

○ 1、2学期の報告及び今後の予定について（資料説明）

10月～3月の行事について報告する。

- ・今年度も1年生がなかつ保育所と交流しており、サツマイモ栽培や収穫を行っている。8月のプール遊び、分校の文化祭では、保育園児が来校して、1年生とダンスを披露する予定である。2月には道の駅サンピンで、焼き芋販売を行いその収益で絵本を贈る予定である。今年度は、中津小学校の児童も参加して行う事になっている。
- ・1年生の総合的な探求の時間の取り組みとしてユニクロ社の「服のチカラプロジェクト」に参加しており、ユニクロ社より講師を招聘して、プロジェクトの意義や難民の状況等の話を聞き、生徒達でプレゼン、回収方法、ポップなど行い、なかつ保育所、中津小学校、川辺西小学校で教職員、保護者、児童にプレゼンを行い、回収を行った。段ボール16箱、約1600着のこども服を贈ることができた。
- ・11月5日は、「世界津波の日」に合わせて、避難訓練、消火訓練に加えて自衛隊による高校生防災スクールを実施した。
- ・11月12日には、近畿医療専門学校から3名の講師に来ていただき「鍼灸・免疫の活性化・血行改善」について講義、実習を行った。
- ・11月13日には、芸術家の妻木良三先生に来ていただき、備長炭のデッサンに取り組んだ。作品は、文化祭で展示する予定である。

- ・ 11月18日は、2回目のたちばな支援学校との交流を予定しており今回はサッカーでスポーツクラブの生徒と交流を行う。
- ・ 12月10日は林業講座があり、翌日は終日林業体験を行う。
- ・ 2、3年生はコーヒー販売実習を行っており、本校の文化祭や地域のイベントに出店している。3年生の新しい取り組みとして、コーヒーの出漕らしと備長炭を使用した消臭剤の作成に取り組んでおり、日高高校の科学部の協力を得て、消臭効果があることを確認して販売した。
- ・ 3年生の進路について
3年生は11名在籍しており、1名が就職、2名が専門学校、8名が4年生大学を希望している。現在のところ、就職（自衛隊）、専門学校1名（建築関係）、4年生大学（関西大学：総合型選抜 天理大学：スポーツ 日本経済大学：スポーツ特待 日本経済大学：文化部門特待で4年間学費免除）の内定をもらっている状況で、他の生徒も指定校受験する予定である。昨年度から、立命館大学（一般試験）、和歌山大学（総合型選抜）と、指定校推薦を利用せずに受験をする生徒が見受けられた。早くから進路を見据え取り組んだ成果が出ている。今年度の関西大学、日本経済大学：文化部門で4年間学費免除の生徒は、総合的な探究の時間の取り組みをビジネスプランコンテストで発表し最優秀賞をいただいたプレゼンを使って内定を得ている。

○協議

（湯上委員）

総合的な探究の時間のコーヒー販売に3年ほど前から協力しているが、当時は想像できないくらい活動を広げて成果を出している。中津の備長炭だけでなく地域の学校として魅力を発信、発展させていって欲しい。

（木寺委員）

今年度は、中津分校1年生が取り組んだ服のチカラプロジェクトに参加したが、1回目は中津小学校の保護者に、2回目は4、5、6年生にプレゼンしてもらったが、対象者に応じたプレゼンをしてくれた。1回目は緊張していたが、2回目は慣れたようで、小学校の生徒達も理解していた。一緒に参加できてありがたかった。

（丸山委員）

継続して毎年、新しい取り組みに挑戦していることは大変評価できる。公立高校での活動としては充分だと思う。ここまでできあがったので次の発展を模索しても良いのではないか。チームとして取り組んでいるが、これからは自分

ごととして探求活動に取り組んでみるのも良いと思う。個々に応じた学習の発展を促し、どんな力を付けたいのか、どんな力ついたのか？を実感できる取り組みをしたら良いと思う。例えば、いま取り組んでいる地域資源の活用、経済活動は同じ事柄でも目標は様々である。また、他教科とのつながりや自分ごととして探求としてつなげていく事によって連続性が生まれ、生徒の学びが充実していくのではないのでしょうか。生徒の興味・関心を伸ばし発展していく活動にして欲しい。

今後の展開としては、継続の面からも、生徒を動かして、先生を動かす事ができたら、生徒が希望しているから先生も動くという構図が作れば良いのだが。生徒たちの気づきが一番大きなモチベーションとなり、きっかけ作りのための総合的な探究の時間であって欲しい。そのためにも、先生が引っ張っていくのではなくきっかけを作ることが大事である。

例えば、課題の設定方法にしても、どこに着眼させるかなど個々の感性をくすぐることが大事である。

(湯上委員)

そうですね。生徒から先生へのアプローチは強力である。

私から生徒に伝えたいことは、いま取り組んでいる総合的な探求の取り組みは、社会の縮図であるということです。生徒自ら課題を設定して、成果を上げることは、社会に対応するのは自分であるというメッセージとして取り組んで欲しい。

○その他

【学校運営協議会委員】

上野山 倫生 (日高川町立中津中学校校長)
奥川 季花 (ソマノベース代表取締役)
木寺 知江美 (日高川町立中津小学校校長))
中西 宏治 (育友会会長)
丸山 範高 (和歌山大学教育学部教授)
山下 泰三 (日高高等学校中津分校同窓会会長)
湯上 彰浩 (B－S T Y L E代表取締役)
山本 直樹 (日高高等学校中津分校校長)

(敬称略)